

戸山流居合道会 会報 41号

発行 戸山流居合道会本部 / 発行責任者 窪田 章生 / 企画・編集 本部情報部

第 24 回 戸山流居合道錬成大会

多くの見学者・新人を迎え、益々盛大に開催

平成 16 年 7 月 25 日(日) 京田辺市中央公民館において、関・誠風館・大阪誠和会・名古屋・京田辺各支部から 40 余名の会員が参集し、第 24 回戸山流居合道錬成大会が盛大に開催されました。

錬成大会は「感動を呼ぶ居合を」との守岡副会長の挨拶で始まり、大会で印象深かったことは、見学者が多かったことです。見学者は、入会して日がまだ浅い方や、会員の家族や友人で入会を検討されている方等です。「段外の部」の参加者が 9 名もいたことも合わせ、本会の益々の興隆を象徴していました。

閉会式では、演武の優秀者を表彰した後、大会参加者の過半を越える 27 名の会員の皆さんに段位・称号の認定証が授与されるとともに、誠和会の塩見・森両会員に感謝状が贈呈されました。

なお、平成 16 年度第 1 回定時理事会では、新年度予算を決定するとともに、9 月 19 日の総合武道演武大会、10 月 10 日の関刃物祭りへの参加、11 月関支部における試斬講習会の開催が決定しました(4 面に議事録掲載)。

また、大会終了後、「こぶや亭」において懇親会を開催し、会員一同懇親を深めました。

1. 開 会 式

開会式は、新野副行事部長の司会で進行いたしました。

(1)開会宣言

井上理事長の開会宣言により、大会は始まりました。

(2)守岡副会長挨拶

窪田会長が、7 月 20 日から約 1 週間の予定で入院中のため、代わってご挨拶いたします。なお、会長のご病気はヘルペスですが、「身体には別状ないので、心配しないように」との書状をいただいております。



さて、本日は早朝より、全国各地から多くの会員の皆さんに参集いただき、まことにありがとうございます。

まもなく、アテネオリンピックが始まり、テレビに釘付けとなることでしょう。オリンピックでは、沢山の感動の場面が生まれることと思いますが、居合道の演武においても、一切の無理・無駄を排した鍛えられた技は、人に多くの感動を与えられます。一年間、各支部において鍛練された技をいかなんか発揮し、感動を呼んでください。そして、本日の大会での感動を持ち帰り、来年度も演武できるように、また稽古に励んで欲しいと思います。

本日はご多忙のところ、田辺剣友会の羽場師範、中山会長にご臨席を賜りありがとうございます。今後ともよろしくご指導をお願いいたします。

最後に、事務局の皆さんのご苦勞により、こうして大会が盛大に開催できますことを感謝いたします。

本日は、皆さん方と一緒に楽しく一日を過ごし、怪我のないよう、思い出を築きたいと思っています。

(3)来賓祝辞

田辺剣友会師範羽場一男先生より、祝辞をいただきました。

皆さん、おはようございます。

今日は第 24 回錬成大会にお招きいただき、ありがと

うございます。

毎年のように暑い最中、特に今年は熱中症が全国各地で見られるように、とりわけ暑い日が続いています。さきほど、守岡副会長から「感動を呼ぶ居合を」とのお話がありましたが、とても大事なことだと思います。是非、気持ち良く、立派な居合を演武してください。

ただし、この酷暑の中ですので、怪我には十分注意してください。怪我のないよう立派な居合を披露されることを期待いたしております。

最後に、大会のお世話をいただいた役員の皆さんに感謝申し上げます、私の挨拶を終わります。

(4)優秀賞カップ返還

前年度段位別形錬成の優秀者より、カップが返還され、代わりにレプリカが贈呈されました。

(5)錬成上の注意

生沼相談役より、次の3点について、錬成上の注意を受けました。

着装の乱れはないか、今一度点検すること。

目釘に十分注意し、怪我のないようにすること。

前後左右の安全に注意し、充分な間合いを取って演武すること。

2. 演 武

(1)特別演武

京田辺支部の柴田・寺田両会員から剣舞を披露いただきました。両会員は、神心流尚道館で剣舞の指導をされています。

演武に先立ち、柴田会員から本日の演題について解説をいただきました。

本日は3題演舞させていただきます。

最初は、楚の将軍「項籍」の「垓下(ガイ)の歌」です。楚が漢と戦った際、包囲する漢軍の陣中から楚の国の歌が聞えたことから、「自国の楚が漢に占領された」と思いを謳ったものです。ここから「四面楚歌」の言葉が生まれました。

次は、大鳥圭介の「日本刀」を演舞します。これは、日本刀の美しさと堅牢さを歌ったうたです。幕末の混乱と緊張と辛苦に満ちた日を追憶しています。

最後は、徳川光圀の「日本刀を詠ず」です。これは、日本刀を素材に、外敵に対する日本精神のあり方を詠じた詩です。

(2)ストレッチと、全員による形錬成

段位別形錬成に先立ち、怪我予防のストレッチと、全員での形錬成を行いました。



体の各部をほぐしました。

全員での形錬成は2班に別れて、守岡副会長と前田副理事長の指揮で、基礎居合・本居合・八方抜きを演武しました。



(3)段位別形錬成

段位別形錬成は、新野副行事部長の司会進行により、今村六段 / 野倉錬士六段 / 本久・井上各教士七段 / 前

田教士八段ノ守岡・生沼兩範士八段の7名の審査員が見守る中、6部に分けて、段位別に以下を演武しました。

- 段外の部：基礎居合と本居合 5 本目まで
- 初段の部：基礎居合と本居合 5 本目まで
- 二段の部：基礎居合と本居合全て
- 三段の部：本居合と八方抜き
- 四・五段の部：本居合と八方抜き
- 六段の部：本居合と八方抜き

なお、段外の部で演武した長谷川尚彦会員(関)吉田和弘会員(関)岩田憲明会員(名古屋)、初段の部の柴田勝会員(関)、3段の部の西池克之会員(誠和会)は、それぞれ初段・2段・4段の審査が合わせて行われました。

段位別錬成の後、審査員の先生方から模範演武が披露されました。



(3) 段位別試斬り錬成

昼食休憩の後、形錬成と同じ先生方の審査のもと、6班の段位別に、以下の青竹の試斬りを行いました。なお、各段位の演武者の錬成の前に、守岡師範から模範が示されました。

- 段外の部：基礎居合 3 本目の右袈裟斬(2回)
- 初段の部：基礎居合 3 本目の右袈裟斬(2回)
- 二段の部：二足一刀から左右袈裟斬(各1回)
- 三段の部：二足一刀から左右袈裟斬(各1回)
- 四・五段の部：八方抜きの右袈裟・左袈裟斬(各1回)
- 六段の部：八方抜きの右袈裟・左袈裟斬(各1回)

段位別錬成終了後、各段位の優秀者の審議、賞状の準備、および理事会が開催されている間を利用して、試斬りのミニ講習会が開催され、演武では斬り足りなかった面々が、存分とはいきませんでした、それなりに斬り

を堪能しました。

3. 閉会式

(1) 表彰

表彰式の冒頭、守岡副会長より段位審査の結果が発表になりました。

「皆さんお待ちかねでしょうから、まず審査結果を発表します。本日、受審された5名の方は全員合格です」

続いて、段位別形錬成・試斬り錬成の優秀賞が、以下の方々に贈られました。おめでとうございます。

区分	形の部	試斬りの部
段外	長谷川 尚彦(関)	岩田 敏明(名古屋)
初段	山本 俊則(誠和会)	柴田 勝(関)
二段	武元 前平(名古屋)	辻本 芳憲(誠和会)
三段	大野 光美(京田辺)	大野 光美(京田
四・五段	藤原 六男(京田辺)	辺)
六段	今瀬 道春(関)	山岡 広治(京田辺)
雅賞	伊藤 英子(誠和会)	今村 五生(名古屋)
土魂賞	上西 正泰(誠和会)	



次に、本年3月7日の段位審査会、各支部での審査、本日の演武に対する審査に合格された以下の27名の方々に、段位ならびに称号の認定証が授与されました。おめでとうございます。

区分	昇段・称号授与者
初段	堀場 達成・長谷川 尚彦・吉田 和弘(関) 高田 一人・山本 俊則(誠和会) 光本 雅弘(京田辺)、岩田 憲明(名古屋)
2段	辻本 芳憲・重松 紘子(誠和会) 守本 哲子・ 寺田 晃(京田辺) 柴田 勝(関)

3段	大石 浩士・徳丸 憲治(名古屋) 大野 光美・柴田 守一(京田辺)
4段	山岡 広治(京田辺)、西池 克弘(誠和会)
5段	藤原 六男(京田辺)、杉田 鶴吉(誠風館)
6段	徳島 多七郎(誠風館)、上西 正泰(誠和会) 今村 五生(名古屋)
7段	新野 清登(京田辺)
8段	前田 勝利(誠和会)
錬士	田中 邦彦(京田辺)
範士	林 敏和(関)

段位等認定証の授与の後、守岡副会長から、米国在住のTim.Shiomi 会員に 2 段位を授与した経緯を説明されました。

「今年の 4 月 15 日から 1 週間、米国フレスノの Shiomi 会員を、林・井上・野倉先生と私の 4 名が訪問しました。彼は空手の道場を経営しており、稽古の環境は整っていることを確認しました。そして、4 人で審査した結果、2 段に相当すると認め、翌日、認定証を授与しました。ちなみに、彼は、英信流の初段位を保有していました。聞けば、ハワイで受審して認定されたとかで、とにかく、熱心な方です。来年夏には、来日の予定だそうです。さ

らに詳しいことは、理事会で報告しましたので、各支部長から詳細はお聞きください」

表彰式の最後を締めくくって、誠和会の森・塩見両会員に賞状が贈呈されました。森会員は「誠和会発展のために長年に亘り尽力し、新人会員を積極的に指導している」功績、塩見会員は「後進の手本となるべく熱心に稽古に励み、後進の指導に尽力した」功績で、顕彰されたものです。

(2)講 評(生沼相談役)

本日は早朝より、猛暑にも負けず、盛大に事故もなく大会を開催できたことを、大変嬉しく思います。

本日の大会を通じて、各位は大きな感動を得られたことと思います。そうした感動を忘れることなく、これからも精進に励んで欲しいと思います。

最後に、大会の準備を担当された役員・事務局の皆さんに感謝を申し上げて、私の講評といたします。

(3)閉会宣言

本久事務局長が閉会宣言を行い、大会を終了しました。

